「白い襟にて顔かくすホイ、見る影姿が人形町ホイ、今日で命が尾張町でホイ、チウのん二錢がんや」
「そんな物はおまへん、それ見なはれ貴郎がしようむない事を云ふてなはる依つてに表は一パイの人集りや、モシ何でも有まへんね此人品物買ひに來て忘れて此様な事を云ふてはりまんね、往來をしとくなはれ、貴郎も何を買ひに來なはつたんや」
「ホイ、今ドン〳〵と渡る橋ホイ、悲し〳〵の涙橋ホイ、品川女郎衆が飛んで出るホイ、チウのん二錢がんや」
「愈々おまへんは、それ見なはれ段々人が殖へて來たがな、押しなはんな、それ店の前に積んで有る大根を引操り返して仕舞ふた、貴郎も早う思ひ出しなはれ、何を買ひに來たんや」
「ホイ」
「まだだつたか」
「是より替ると天下の死置場、鈴ヶ森ぢや、どうぢや〳〵」
「賑やかなお方やなー」
「二丁四方は竹矢來ホイ、中にも立つたる火柱のホイ、オイ八百屋私の云ふてるのんこれなんやこれ」
「貴郎の云ふてなはるのんは、そらカラクリと違ひますか」
「違ひない能う思ひ出して呉れた、からくり二錢がんお呉れ、ウム違ふがな、一寸思ひ出し、それ〳〵」
「モシ火鉢の縁を叩きなはんな、瑕がつきまんがな」
「此からくりは何のからくりや」
「そら誰でも知つてる八百屋お七と違ひますか」
「違ひない、お七二錢がん、違ふがな傍まで行てるねが、八百屋お七の色男は何や云ふな」
「あれは駒込吉祥院の小姓の吉三と違ひますか」
「なんや、こしおォ、そいつや……、そいつや」
「盗人を掴へた様に云ふてなアる」
「そいつや、能う思ひ出して呉れた、オヽ熱やの」
「汗をかいてなあるがな」
「胡椒二錢がんお呉れ」
「なんや胡椒買ひに來なはつたんかいな、吃驚しましたがな、アヽ胡椒なら一昨日から賣切れて仕舞ひました」
「ゲエ、そら殺生や、そら殺生やその胡椒を火の中へ燻べたら嘘が出るか」
「隨分エグイ嘘が出ます」